



株式会社 橋本店

〒980-0822 仙台市青葉区立町27番21号
TEL. 022-714-7020 FAX. 022-714-7030

www.hashimototen.co.jp

夢、かぎりなく。

HASHIMOTEN COMPANY PROFILE



CHALLENGE HASHIMOTOTEN

限 り な い 、 わ た し た ち の 挑 戦

創業から140年余りの歩みとともに

私たち橋本店が取り組んできたこと。

それは、ものづくりに対するこだわりと確かな技術で地域社会に貢献し、
信頼される企業であり続けるということ。

建設業は未知の空間に夢をつくる仕事。

その限りない夢に向かい、新しい発想と変化を恐れないチャレンジ精神で
私たちは歩み続けます。

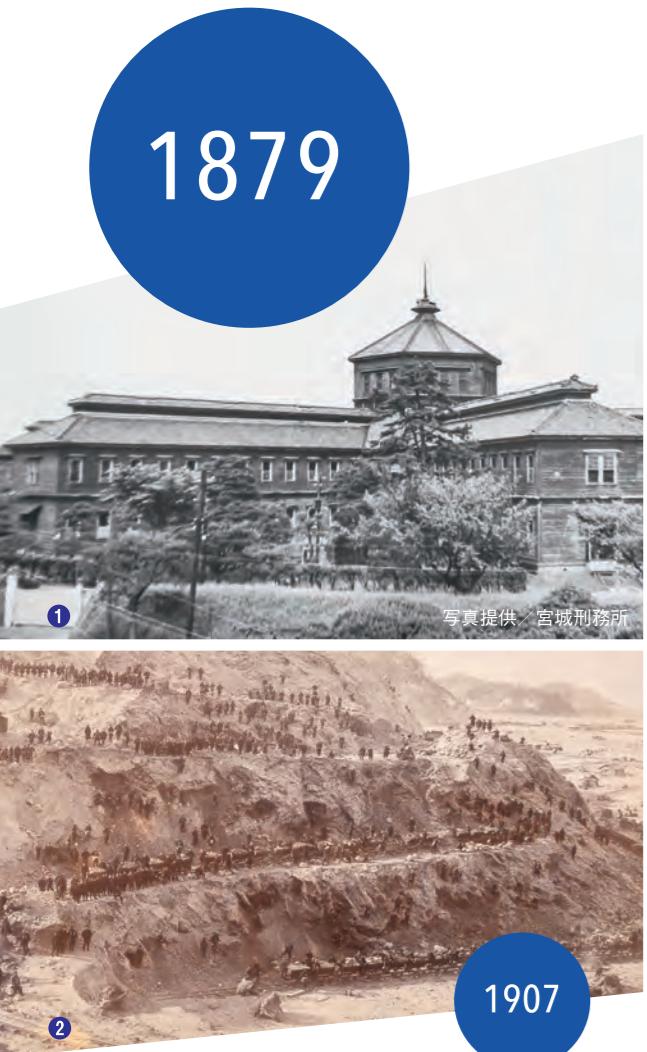


HASHIMOTOTEN DIGEST OF HISTORY

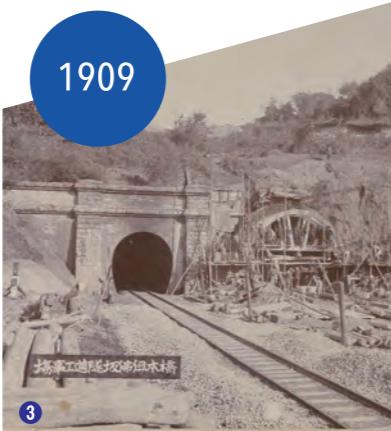
地域に長く愛される、確かなものづくり。これが橋本店の原点です。

明治から平成まで、それぞれの時代に花開いた先達たちの夢とチャレンジ精神の賜物をご覧ください。

1879



1909



1937



1907



1920



1979



①宮城集治監(現 宮城刑務所) 1879

1878(明治11)年に前身の「橋本組」が請け負った初めての建築事業。その特徴的な外観から「六角大学」「六角塔」と呼ばれた。老朽化と行刑理念の変遷に伴い、1973(昭和48)年に解体撤去された。

②室蘭喇叭(らっぱ)山切取工事 1907

橋本店が北海道進出後に請け負った日本製銅所室蘭製作所の土木工事。全国から1700名ほどの作業員を集め、岩山の掘削や軽便線路の整備にあたった。大工事は、後に室蘭発展の礎を築いた。

③室蘭仮坂トンネル(室蘭本線) 1909

橋本店が手がけた室蘭本線の仮坂トンネル工事。当時は、上り・下りのそれぞれにトンネルを設けた。後に改修工事を経てコンクリート施工となつたが、1線は現在も使用されている。

④折渡トンネル(羽越本線) 1920

橋本店が手がけた日本初のシールド工法によるトンネル工事。特殊な工法は、未経験だったこともあり難航を極めたが、後に請け負うこととなる数々の鉄道隧道工事の礎となった。

⑤仙台大橋 1937

初代は江戸時代、伊達政宗により造られたが、1937(昭和12)年、橋本店によりコンクリートアーチ橋に。2015(平成27)年に再び補修工事を行い、築造当時の姿が蘇った。

⑥宮城県美術館 1979

地域に根ざした公共文化施設として親しまれている。岩盤質の土地の整地など、工事は困難を伴つたが、国内の良好な建築資産の創出などに寄与したとして1983年、第24回建築業協会賞を受賞。

1993



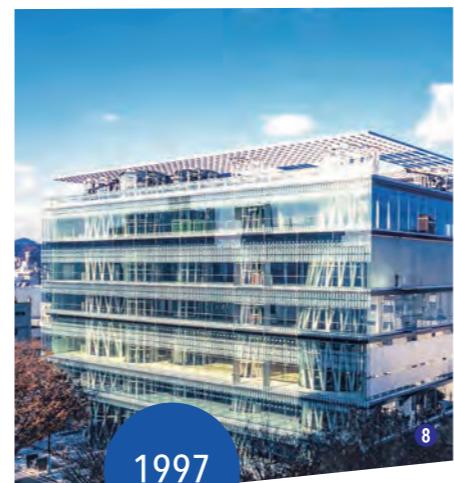
2007



2012



1997



2013



⑪仙台市地下鉄東西線仙台駅 2012

仙台市西部の八木山動物公園と東部の若林区荒井を結ぶリニアモーター式地下鉄線。地下水位や地盤強度などの問題もあり、模擬実験や試験施工を重ね、2015(平成27)年12月に開業した。

⑫気仙沼大島大橋 2013

地域住民の長年の悲願だった架橋事業で、橋本店は下部工事をJVで受注。本体上部の架設工事は2017(平成29)年3月、5回に分けて行われ、2019(平成31)年4月開通の日を迎えた。

⑬仙台うみの杜水族館 2013

東日本大震災の復興のシンボルとして地域とともに歩む水族館。海の豊かさと都会的なイメージの外観、アップダウンの少ないパリアフリー構造を持つ。地域の津波避難の拠点としても活用予定。



TOP MESSAGE

創業時からのチャレンジ精神とともに 先進的な企業として、地域社会に貢献

創業は明治11(1878)年。日本の近代化と共に歩んできた弊社は、明治から戦前、数多くの鉄道敷設工事に関わり、日本最初のシールド工法でトンネル工事に挑むなど、わが国建設業史に大きな足跡を残しました。戦後も土木・建築を通して、国土の再生に多くの貢献を果たしてきました。

弊社が明治から令和へと5つの時代をつなぐことができた

のは、創業以来培ってきた旺盛なチャレンジ精神があったからに他なりません。これこそが遠い未来を見据え、時代の変化への柔軟な対応を可能してきたのです。

現在、弊社は建設業の働き方改革の実現を目指し、ICTを用いて生産性向上を図るi-Constructionに取り組んでいます。ICT建機の活用、ドローンやレーザースキャナでの

測量に加え、現場全体を3次元で把握するCIMやBIMも導入し、業種全体のスキルアップを図っています。

また、新たな取り組みとして、公共施設などの設計、建設、維持管理及び運営に民間として関わるPFI事業への参画や、地域づくり、都市再開発など、建設業の枠を超えた先進的な試みを積極的に進めています。

株式会社 橋本店 代表取締役会長 CEO
佐々木 宏明 SASAKI HIROAKI

1953年宮城県大崎市生まれ。東北学院大学経済学部卒業。1975年橋本店入社。1995年取締役営業部長、以後、常務取締役、専務取締役を経て2008年より代表取締役社長、2023年より現職。現在、宮城県建設業協会副会長、仙台商工会議所工業部会長、宮城県経営者協会副会長、定禅寺通活性化検討会副会長を兼任。

昨今は東日本大震災をはじめ、全国各地で災害が頻発しており、防災、減災の役割を備えた建設のあり方も希求されています。弊社は今後も新しい時代の建設業として、様々なことに挑戦し、着実に歩んでまいる所存です。尚一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

Pick up content

橋本店の取り組み

①PFI事業

公共サービスの可能性を広げるPFI事業への取り組み。

宮城県及び仙台市では、官民の適切なパートナーシップのもと、良質な公共サービスの実現と可能性を広げるための有効手段の一つとして「PFI」の活用を推進しており、橋本店においても事業に取り組んでいます。

PFIとは？

PFI（Private Finance Initiative：プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）とは、公共施設等の建設や維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う、社会資本整備の新しい手法です。民間の資金とノウハウを活用し、民間主導で公共サービスの提供を行うことにより効率的で効果的な質の高いサービスの提供や事業コストの削減などが期待されています。



仙台市天文台

国内初の天文台PFI事業として、維持管理・運営されている仙台市天文台。2008（平成20）年7月1日に供用開始。「宇宙を身近に」をコンセプトに、宇宙・天文に関わる情報のみならず、歴史、環境、生命、音楽、芸術などと融合した多彩なプログラムを展開しています。橋本店では、戸田建設との共同企業体として施工に携わりました。長期にわたり来館者に安心して宇宙のスケールを体感してもらえるよう、耐震や省資源施工などの技術を活かし、事業に取り組みました。



まなウエルみやぎ

教育・保健福祉分野の様々な課題に対応する教育・福祉総合施設として2013（平成25）年4月に供用開始。橋本店は鹿島建設との共同企業体として施工に携わりました。施設内には「総合教育センター」「美田園高等学校」「子ども総合センター」「中央児童相談所」「リハビリテーション支援センター」が入居し、

子どもの教育と福祉の様々な課題に応じたサービスを提供しています。PFI事業のメリットである設計者、施工者、維持管理者それぞれのノウハウを集結することで、より価値の高い施設が誕生しました。



各施設内や施設の結節点に様々なバリエーションのラウンジを設け、来館者や職員などのコミュニケーションの誘発、施設間の連携などのシナジー効果を高める。

仙台市高砂学校給食センター

仙台市高砂学校給食センターは、仙台市幸町学校給食センターの老朽化と耐震性の強化等に対応するため、新たな学校給食センターとしてPFI方式により新設され、橋本店はダイアンとの共同企業体として施工に携わりました。施設内

には広々とした調理場をはじめ、食物アレルギー専用調理室も設けられ、市内の21の小・中学校に11,000食の給食を作り、届けています。



150食まで対応可能なアレルギー対応食調理室を完備（左上）するほか、適切な作業動線の確保と各調理室の配置などにより交差汚染を防止。

Pick up content

橋本店の取り組み

②再開発事業

都市機能をリニューアルする 再開発事業への取り組み。

地域活性化を目指し、官民一体となって取り組む再開発事業。時代性、地域特性に合わせ、土地を合理的かつ高度利用し、整備を行うことで、都市機能のリニューアルを図ります。



2018年12月19日グランドオープンを迎えた、名取市図書館を含む複合施設。名取駅からペデストリアンデッキ(歩道橋)で結ばれ、新たな人の流れや賑わいを創り出している。

新ランドマークとして賑わいを創出

東日本大震災により被災した名取駅東口の活性化などを目的に、2015年より名取駅前地区市街地再開発組合が再開発事業を推進。橋本店は、鹿島建設、セコムホームライフ、久保田本店、アットシステムの各社とともに「名取駅前再開発共同企業体」を設立し、再開発事業に取り組みました。施設建築物は、北・南・P棟の3棟で構成され、北棟には名取市図書館や増田公民館、商業施設を、南棟には商業施設や集合住宅を配置。南棟2・3階の中間部分に中間免震層を設置し、防災を強化した構造となっています。歩道橋で名取駅とも直結し、新しいランドマークとして賑わいを創出しています。



温かみのある木製書架が並ぶ名取市図書館(左)。広い通路をはじめバリアフリー設計となっている。見晴らしの良いラウンジコーナー(右上)・増田公民館ホール(右下)。

地域の「つながり」をつくり、 ともに育む、新商業施設。

少子高齢化の進行や単身世帯の増加など、変革期にある日本の社会構造に合わせ、商業施設の役割も徐々に変化しています。生活の利便性のみならず、地域の特性にフィットする新施設の誕生に携わりました。



「BRANCH仙台イースト」(青葉区桜ヶ丘)と「BRANCH仙台ウエスト」(泉区長命ヶ丘)の2区画からなる「BRANCH仙台」。コミュニティを育む新たな拠点として地域の期待を集めます。

生活利便性の向上だけでなく、 新たなコミュニティを育む拠点に。



周囲の景観にもマッチする、落ち着きのある外観(左)。雨天でも気にせず移動やショッピングが楽しめるよう、ガレリア(屋根付き回廊)が設けられている(右上)。

BRANCH(ブランチ)は、大和リース株式会社が事業展開する複合商業施設ブランド。スーパー・マーケットやドラッグストア、飲食店、クリニックモールをはじめ、体験型施設や交流スペースなどを備えた新業態の施設で、宮城県初となる「BRANCH仙台」は橋本店が新築工事を受注。2区画からなる施設は、2018年11月に「BRANCH仙台イースト」、2019年4月に「BRANCH仙台ウエスト」がそれぞれ開業。周囲の景観に馴染む開放感のある施設は、生活利便性の向上やライフスタイルの提案とともに、地域の活性化と様々な世代のコミュニティを育む新たな拠点として期待を集めています。

土木は、国土を守り、 経済を支える重要な仕事。

ここ数年、自然災害が頻発している日本。国土と人々の生活を守り、経済活動を支える土木事業においても、減災などの新たな役割が期待されています。近年はICTなどの新技術を活用し、生産性の向上を図るとともに魅力ある地域のインフラ整備・維持管理に貢献しています。



「気仙沼大島大橋架橋事業」では周辺の道路改良工事も行われ、橋本店では5つのトンネルも施工。(写真左より) 浦島2号トンネル・乙姫1号トンネル・乙姫2号トンネル。

利用者目線で、 永く愛される構造物を造る

橋本店土木部は、宮城県内を中心に、主に官庁より受注した道路や橋梁、トンネル、湾岸・河川などにおける構造物を造っています。私たちが大切にしていること。それは「地域社会に貢献したい」という思いです。地域とコミュニケーションを図りながら、利用者目線で永く愛用される構造物を造る。地元企業である私たちだからこそできると捉え、日々研鑽に努めています。



最新技術で事業全体を スキルアップ

近年はICT (Information and Communication Technology) 技術を活用する土木工事が増える傾向にあります。橋本店でも2016年にISO27001認証取得。タブレット端末をWEB会議や電子決済等に活用するほか、各作業工程で3次元モデルを用いるCIM (Construction Information Modeling/Management) を導入し、社員はもとより事業全体でのスキルアップを図っています。



浦田函渠(上)・常磐自動車道 鳥の海(左下)・仙台港地区南防波堤(右下)。

都市部の地下開発に 欠かせないシールド工法

人口が密集する都市部において、地下鉄や共同溝などを築くことは、用地確保の難しさや交通渋滞など、様々な問題に直面します。「シールド工法」は地上での開削を行うことなく、掘削機を地中で掘進させながらトンネルを築造する工法です。橋本店では2008～2013年、「仙台市地下鉄東西線荒井トンネル工区」において、シールド工法を採用。地下水位が高く、崩壊性の高い砂質土壤を模擬実験や試験施工なども行なながら、慎重に施工を進めました。



地下鉄東西線荒井トンネル工区で使用したシールド掘削機(左)と完成した荒井トンネル(右)。

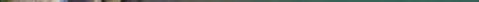
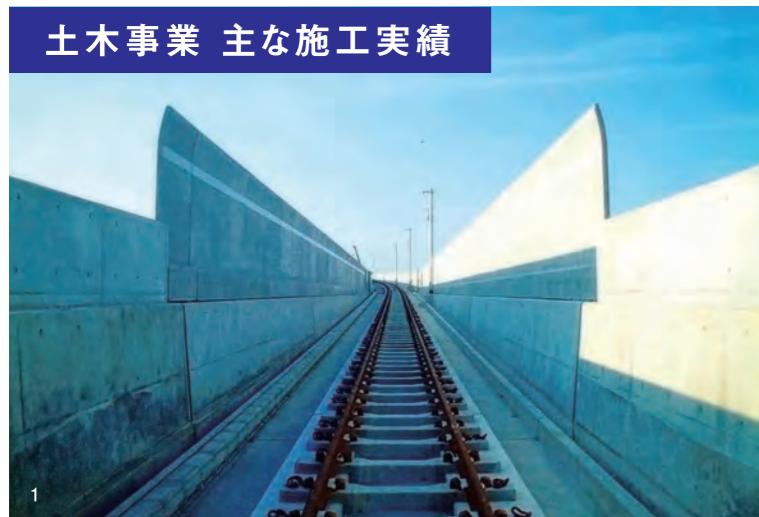
地域の夢をつなぐ海洋土木

東日本大震災では、岸壁や防波堤などの数多くの港湾施設が津波により破壊。橋本店では三隻の大型海洋工事用船舶を導入し、「仙台港区外港地区南防波堤(災害復旧)上部工事」や「名取市閑上漁港災害復旧工事」など、2016年度までに47件の海洋土木工事を受注。これらの海上工事は30,000時間無災害を記録し、2015(平成27)年1月8日、宮城県労働局より表彰されました。



仙台港防波堤工事で活躍するクレーン船(左)と七ヶ浜町の新北防波堤災害復旧工事(右)。

土木事業 主な施工実績



1.仙台空港アクセス線(JV) 2.東北新幹線(山屋・馬場)(JV) 3.東北自動車道仙台南IC(JV) 4.国分町共同溝(JV) 5.仙台大橋 6.浦島1~2号トンネル 7.乙姫1~3号トンネル
8.白浜地区海岸災害復旧工事 9.長沼ダム(JV)

10.仙台市地下鉄東西線仙台駅(JV) 11.山元町山元浄化センター 12.小森トンネル 13.青葉山公園仙台城石垣(JV) 14.新北防波堤 15.吉野沢地区道路改良 16.いづみ墓園(JV) 17.北四番丁大衡線(荒巻本沢工区)(JV) 18.名取川閘上10工区堤防

あらゆる発想と技術革新で、 建築の可能性を広げる。

橋本店建築部は、宮城県内を中心に官庁や民間企業より発注される建物を造っています。その種類は、学校などの教育施設をはじめ、文化施設、医療施設、住宅、商業施設、ホテル、オフィス、工場、寺社など多岐にわたります。昨今はICTやタイムラプス(短縮動画)を利用し、スピーディーな情報共有を図るなど、作業効率の向上や技術革新を進めています。



駐日大韓民国大使館韓国文化院

海外企業とのJVで橋本店が建築工事を請け負った「駐日大韓民国大使館韓国文化院」。個性的な外観をはじめ、階層によってS造やSRC、RCなどの様々な工法が用いられた特殊な構造であったことから高い技術が求められた。

柔軟な発想と新技術で 次世代のニーズに対応

構造物を造るには、そこに関わるあらゆる人の経験や知恵が不可欠です。橋本店では、もの造りに対する柔軟な発想こそが、建物の新しい価値を提供できると考えています。昨今は、PFIなどの新しい事業方式や建物資産の効率的な長寿命化、収益向上に向けた技術が求められていることから、これまでのノウハウとともに、ICTやBIM(Building Information Modeling)などの新しい技術を導入し、これからの建築の可能性を広げていきます。



防災や減災機能の ある建物の提案を目指す

東日本大震災では、あらゆる建物の被害調査や修繕工事に携わり、地場ゼネコンとしての実績を発揮することができました。また、地震発生直前の3月1日に仙台市宮城野区に開設していた災害対策センターも震災の復旧工事の拠点として大きな役割を果たしました。今後は、災害発生時の対応だけでなく、施工時点から防災や減災機能を備えた建築物の提案をするなど、リスクヘッジを考慮したソリューションの開発と提供に努めたいと考えています。



NHK新仙台放送会館(上)・大崎市古川地域災害公営住宅(左下)・多賀城市鶴ヶ谷地区災害公営住宅(右下)

低予算・短工期を実現する新工法「SSUT工法」

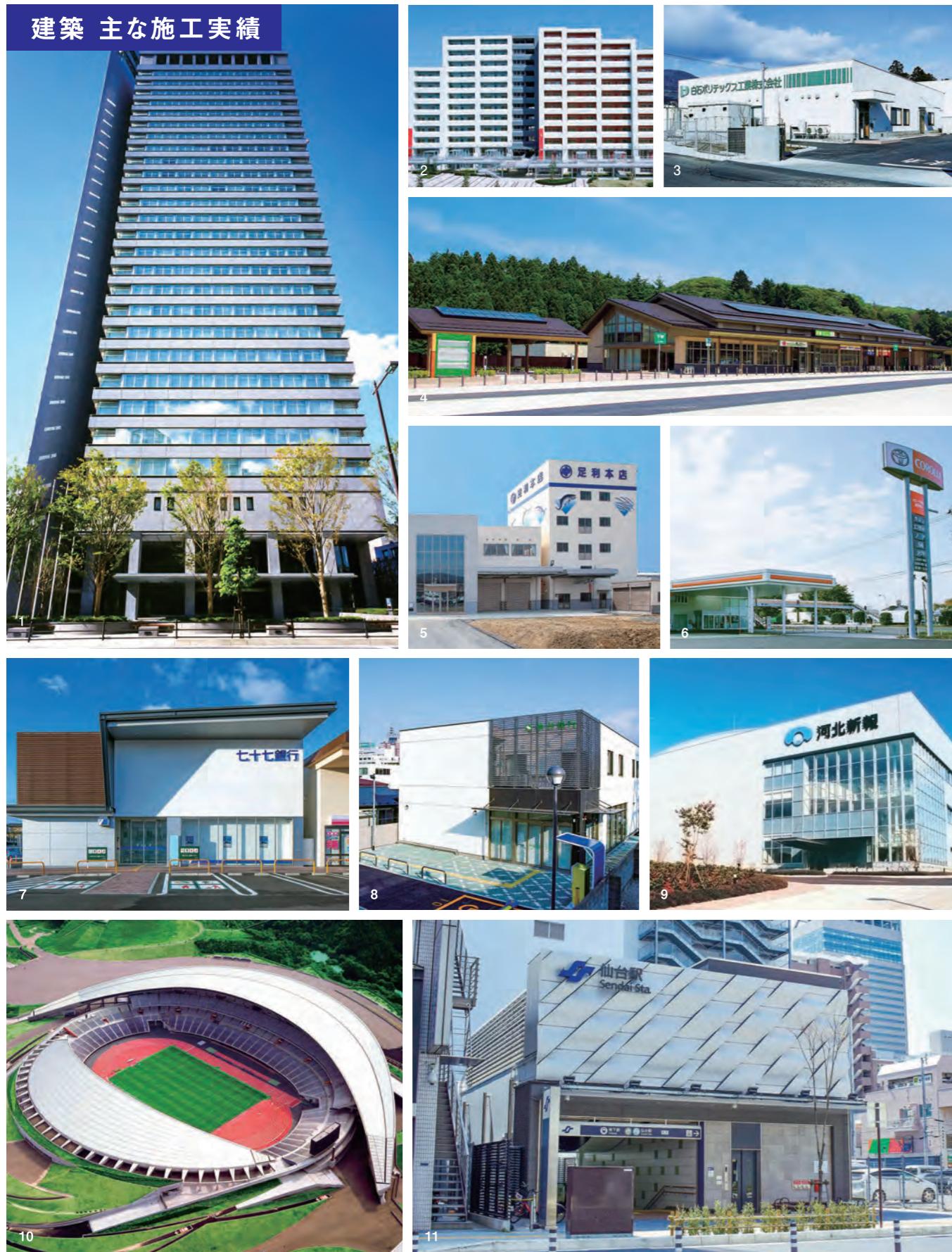


SSUT(サット)工法(※)は、低予算や短工期など、現在の建設業が抱える課題に応える工法の一つです。建物を基準となるパースに細分化し、それらを1つのユニットとして工場製作。現場では積み木を積むようにそのユニットを組み立てるだけで建物が完成するので、圧倒的な工期短縮や、人手不足、低資源化などの課題改善が図れます。

(※)2010年(株)サトウガが特許取得

橋本店がSSUT工法により施工した「ドミニンEXPRESS仙台シーサイド」は約6ヶ月間で完成。大幅な工期短縮により早期の営業開始が可能となりました。

建築 主な施工実績



1.エナジースクエアビル(JV) 2.鶴ヶ谷第一市営住宅団地(JV) 3.白石ポリテックス工業(株)工場 4.春日パーキングエリア 5.足利本店潮見町工場 6.トヨタカローラ宮城遠見塚店(他 泉バイパス店、古川店など) 7.株式会社七十七銀行鶴ヶ谷支店(他 北仙台支店、中田支店など) 8.仙台銀行荒町支店(他 古川支店、志津川支店、歌津支店など) 9.河北新報社印刷センター(JV) 10.宮城県総合運動公園宮城スタジアム(JV) 11.仙台市地下鉄東西線仙台駅(JV)



12.仙台国際センター展示棟 13.たいはっくる(JV) 14.ヨークベニマル荒巻店 15.日本基督教団仙台長町教会 16.社会福祉法人やすらぎ会 17.特別養護老人ホーム春の森から(JV) 18.仙台空港アクセス線 仙台空港駅(JV) 19.東北工業大学長町キャンパス3号館 20.石巻市立病院(JV) 21.聖和学園高等学校(JV) 22.仙台市荒井東復興公営住宅

地球環境に配慮した 太陽光発電への取り組み

環境負荷軽減を提唱する橋本店では、2012年、再生可能エネルギーである太陽光発電事業に着手。

2013年2月、広大な社有地に「くじらのメガソーラー発電所」を開所しました。

年間発電量約157万kWh、年間約750tのCO₂削減効果を發揮し、規模、売電稼働とともに県内最大規模となっています。

くじらのメガソーラー発電所



所在地	宮城県仙台市青葉区芋沢下野～青野木地内
発電所出力	1,500kW(1.5メガワット)
推定発電電力量	年間約157万kWh【一般家庭約450世帯分の年間消費電力量に相当】※1
環境への効果	年間約750トンのCO ₂ 排出削減効果

※1 設備利用率を12%として次式より算出 1,500kW×24時間×365日×0.12(12%)

	出力	数量	合計出力	備考
太陽電池モジュール ※2	155W	10,000枚	1,550kW	景観に配慮し、黒色のフレームを選定
パワーコンディショナ(PSC)	500kW	3台	1,500kW	無効電力の供給により系統電圧の変動を抑制
変圧器 ※3	550kVA	3台	1,500kVA	

※2 太陽電池モジュールは、ケーブルやパワーコンディショナでの電力損失を考慮して、パワーコンディショナよりも総出力を大きくしています。

※3 変圧器は、パワーコンディショナから出力する無効電力の送電を考慮した出力としています。

景観に調和する部材を選定

仙台市青葉区芋沢に開所した「くじらのメガソーラー発電所」は、約3万4900平方メートルの社有地に1万枚のソーラーパネルを設置し、県内最大規模となっています。緑豊かな芋沢地区の環境に配慮し、太陽電池モジュールの周囲を構成するアルミフレームに黒色フレームを選定。これにより周囲の田園地域や里山とも調和する、落ち着きのある景観となっています。

効率性を考えた設置角度

「くじらのメガソーラー発電所」では、敷地面積と発電電力量とのバランスを考慮し、太陽電池モジュールの設置角度を10度に設定しています。また、前列の太陽電池アレイの影が後列に影響を与えないように効率的に配置しています。

パワーコンディショナについて

パワーコンディショナは、太陽電池が発電する直流電力を一般家庭で使用する交流電力に変換する装置です。「くじらのメガソーラー発電所」のパワーコンディショナは、太陽電池の発電能力を最大限に引き出す「最大電力点追従機能」と、日照の変化による出力変動での電圧変動を抑制する「無効電力供給機能」を内蔵しており、あらゆる条件下でも効率のよい給電を目指しています。



耐震性に優れた 世界にひとつだけの住まい

橋本店が提案する「くじらの家」は、ものづくりのノウハウを生かし、開発した、耐震性・耐久性・省エネルギーに優れた木造住宅。住む人が愛着を持ちながら長く住むことができ、ライフスタイルに合わせて改造・改修ができるサスティナブルな住まいを実現します。

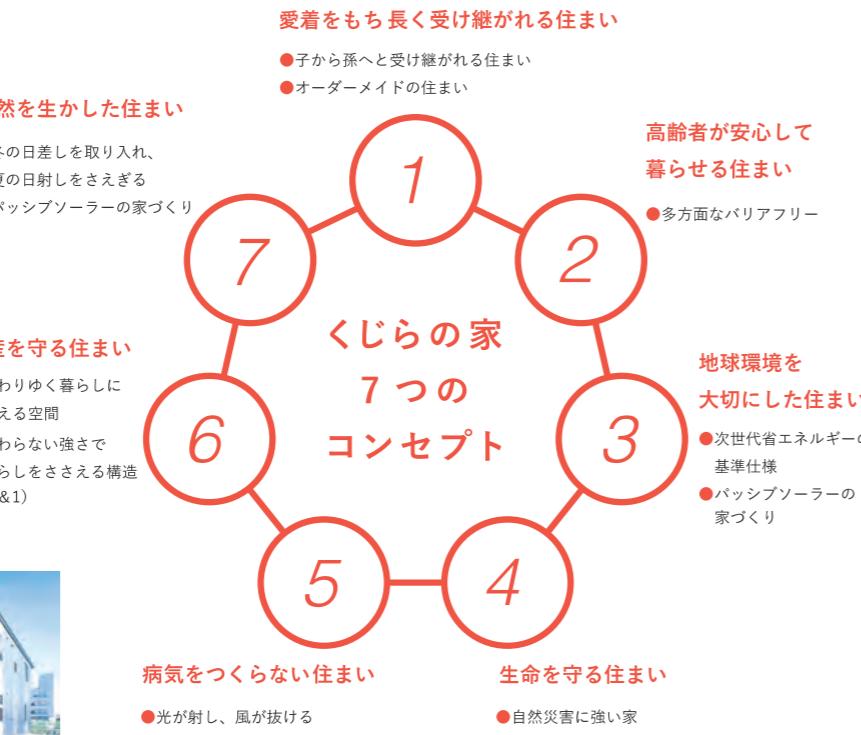
「くじらの家」の特徴

現在、日本の住宅は、規格型・工業化型住宅が主流となっています。私たちが提案する「くじらの家」は、住む人が愛着を持って長く住み継ぐことができ、年を重ねても暮らしやすい創意と工夫のある家を第一に考えた、オーダーメイドの住まいです。

一般的に日本の住宅は、25年を経過すると不動産価値はゼロになると言われています。限りある資源を有効活用するためにも、これまでのようなスクランブル&ビルドを止め、長く使い、住み替えが可能なサスティナブルな家づくりが求められています。そのためには住まいの性能を第三者機関などに客観的に評価してもらうなど、資産価値の高い住まいづくりを目指すことが大切だと考えています。



くじらの家 実績例



SE構法

「くじらの家」に採用するSE構法は、鉄骨造やRC造、大規模建築物と同じ構造計算による設計のため、高強度集成材とオリジナルSE金物を採用することで、木造建築でありながら優れた耐震性能を実現します。また、大開口部や高天井、自由な間取り、ビルトインガレージなど、多彩で自由な空間創りを可能にし、安らぎはそのままに、強さと夢にあふれた新世代の伝統工法と位置付けられています。



資産の有効活用で、豊かな暮らしと地域の発展をサポート

私たちは「ものづくり」以外の分野においても、自社が所有する不動産を有効活用し、人びとの豊かな暮らしをサポートしています。そのコンテンツは、自社ビルにおけるテナントをはじめ、建物や土地の賃貸、太陽光発電事業など、多岐に渡ります。創業時から様々な事業を展開してきたチャレンジ精神のもと、地域の発展に貢献しています。

橋本店・橋本不動産所有物件



仙台橋本ビルディング

住所／仙台市青葉区立町27-21
所有／橋本店



橋本店テクノロジマネージメントセンター

住所／仙台市宮城野区福室字県道前16-1
建築面積／事務所棟:496.86m²
リフレッシュルーム:161.48m²
倉庫:600.00m²
会議棟:568.07m²
敷地面積／9,787.68m²
取得日・所有／1961.6.13 橋本店



レジデンス橋本

管理／(株)ジェイエスピーネットワーク
住所／仙台市青葉区一番町1丁目8-16
用途／賃貸マンション
取得日・所有／2006.3.22 橋本店



ドーミーインEXPRESS仙台シーサイド

管理／石塚晴久((株)共立メンテナンス
代表取締役会長)
住所／仙台市宮城野区中野3丁目4-9
用途／土地賃貸
取得日・所有／1983.3.30 橋本店



ダイハツ仙台港北インター店

管理／宮城ダイハツ販売(株)
住所／仙台市宮城野区出花3丁目27-1
用途／テナント賃貸
取得日・所有／2017.10.1 橋本店(建物)
取得日・所有／1980.11.28 橋本不動産(土地)



サントリビバレッジサービス(株)仙台南支店

管理／サントリビバレッジサービス(株)
住所／仙台市太白区西中田2丁目318-1
用途／倉庫賃貸
取得日・所有／2016.1.27 橋本店



酒のやまや 清水沢店

管理／(株)やまや
住所／塩釜市清水沢2丁目74-2
用途／テナント賃貸
取得日・所有／1991.1.9 橋本不動産



くじらのメガソーラー発電所

住所／仙台市青葉区芋沢字青野木247-1他
用途／太陽光発電事業 ※自社営業
発電所出力／1,500kW
推定発電量／年間約157万kWh(一般家庭約450世帯分の年間消費電力量に相当)
認定日／2012.11.19
竣工式／2013.2.20
所有／橋本店

地域社会への取り組み

私たち橋本店は、創業者 橋本忠次郎が提唱していた「報徳」の精神を大切にし、奉仕活動に取り組み、地域社会に貢献する企業であり続けたいと考えます。

SAKURAプロジェクト

『SAKURAプロジェクト』は、2018(平成30)年4月20日に迎えた橋本店創業140周年の記念事業の一つです。2016(平成28)年4月の「橋本店SAKURAプロジェクト140」発足を皮切りに、橋本店が施工に携わった公共建築物や公共土木施設の周辺地域などに桜を寄贈し、感謝を込め植樹を行っています。植樹場所は、大衡村や気仙沼市大島など宮城県内の20箇所以上に上ります。今後も植樹させていただく各地の発展を願い、桜の成長とともに地域の皆様が毎年暖かい春を迎えていただけるよう祈念し、プロジェクトを進めて参ります。

期間	2016年4月～
植樹場所	橋本店が施工に携わった公共建築物、公共土木施設の周辺など



地域住民の方々をはじめ、来賓の方々、橋本店社員など約140人が参加し、御衣黄(ギヨイコウ)桜などを植樹し、地域発展を祈りました。



社会貢献への取り組み

橋本店では、本社のある定禅寺通りや、宮城県が認定する「スマイルセンター」の一員として行う清掃活動をはじめ、希少植物「ハマボウフウ」の保護活動など、地域に貢献する活動に継続的に取り組んでいます。

定禅寺通り清掃活動の実施



スマイルセンター活動



近隣の小学生によるトンネル銘版への寄せ書き



名取ハマボウフウ保護活動



震災復興への取り組み

2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災では、マグニチュード9.0の激震と、青森～千葉の広範囲に及ぶ津波により、各地に甚大な被害をもたらしました。橋本店では2008年の岩手・宮城内陸地震を教訓に、震災発生直前であった3月1日に「高砂資材センター(現テクノロジーマネジメントセンター)」を開所しており、震災発生直後から国や県、市などの緊急要請に対応、社員一丸となって災害復旧に取り組みました。

被災地への支援物資の運搬

東日本大震災では、地震により道路や鉄路が大きな打撃を受け、救援物資の輸送がままならない状況となりました。発生翌日の12日、国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所より、宮城県南三陸町へ緊急物資を輸送するための国道45号線のがれき撤去要請が入ったため、橋本店では国道4号を櫛(くし)の軸に、沿岸部に通じる東西の主要道路を櫛の歯に見立て開拓を行い、救援ルートを確保する「くしの歯作戦」を実施。複数の地元建設業者が一丸となり、各所で啓開作業に取り組んだ結果、15日には15のルートが通行可能となりました。



橋本店の復旧活動

震災直後、橋本店が受けた復旧要請は260件を超えました。「復興優先」をスローガンに掲げ、社員は不眠不休で復旧活動に努めました。



経営理念

1. 自ら変化を創造できる人づくり

2. 信頼される堅実なものづくり

3. 地域社会に貢献する会社づくり

ブランドコンセプト



「陸から海へ！海から空へ！」

陸から海へ生活の場を変えたクジラの

次の夢は空を飛ぶことかもしれない。

変化してきたクジラのように、

私たちは大胆な発想を持って

進化し続ける企業を目指します。

会社概要

◎創業 / 明治11年4月20日
◎資本金 / 1億円
◎従業員数 / 192名(2023年12月1日現在)
◎営業種目 / 1.土木建築請負業
2.木材の販売及び製材業
3.不動産の所有及び売買

4.不動産賃貸業、不動産管理業及び不動産取引業
5.太陽光発電による発電及び売電業
6.建設資材の製造及び販売
7.損害保険代理店業務
8.前各号に付帯する一切の業務

◎特定建設許可番号 国土交通大臣許可(特-3)第581号
許可年月日 / 令和4年1月13日
◎ISO認証取得 / ISO 9001、ISO 14001
◎主要取引銀行 / 七十七銀行、仙台銀行、三菱UFJ
銀行、みずほ銀行、商工中金

本社・事務所一覧

●本社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27番21号	TEL:022-714-7020 FAX:022-714-7030
●テクノロジーマネージメントセンター	〒983-0005 仙台市宮城野区福室字県道前16-1	TEL:022-352-0022 FAX:022-352-0033
●盛岡営業所	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2-7-42 アルファ104	TEL&FAX:019-681-2041
●福島営業所	〒963-8025 福島県郡山市桑野2-20-16	TEL:024-954-8013 FAX:024-954-8014
●大崎営業所	〒989-6153 大崎市古川七日町8-32	TEL:0229-87-3747 FAX:0229-87-3748
●石巻営業所	〒986-0814 石巻市南中里3-15-28	TEL:0225-25-4371 FAX:0225-25-4372
●気仙沼営業所	〒988-0042 気仙沼市本郷10-13 遠間ビル2F-1	TEL:0226-25-8956 FAX:0226-25-8957

役員・組織図

代表取締役会長 CEO	佐々木 宏明	執行役員 建築部長	五嶋 康則	執行役員 理事	金子 潤
代表取締役社長	武田 文孝	執行役員 土木部長	相原 真士	執行役員 営業部部長	村野 清一郎
専務取締役 土木本部長	常前 隆弘	執行役員 土木部長(原価管理担当)	庄司 泰啓	監査役 弁護士	三島 卓郎
専務取締役 建築本部長	酒井 篤史	執行役員 建築部長(原価管理担当)	稻村 力	監査役 公認会計士	竹田 正幸
専務取締役 営業部長	保田 剛	執行役員 労務安全部長	村山 英明		

